

パブリックコメント実施結果（提出意見及び市の考え方）

1 公表期間 平成25年12月16日から平成26年1月15日まで

2 計画書（中間案）に対する意見の提出結果 3件（20項目）

3 提出された意見及び市の考え方（なお、提出意見については、要約して記載しています）

No.	中間案での該当場所			種別	提出意見	市の考え方
	章	項目	ページ			
1	第1章 計画策定の背景	2-5 土地利用計画	6頁	提案	包括的に保全活用していくために、既存の各団体の方の賛同が得られるならば、6頁表2に示されている「自然」「社会」「生活」「まち」ごとの部会を設定し、活動者の方がいずれかの部会員として再登録する新しい編成をしてはどうか。	今後の保全活動推進における参考とさせていただきます。
	第5章 計画の推進	3-2 応援団による進行管理	43頁			
2	第2章 計画区域の設定と概要	1 計画区域の設定	8頁	意見	計画区域が限定されているにもかかわらず、計画名が「木津川市地域連携保全活動計画」と木津川市全体をカバーしているかのような名称であることに違和感がある。	本計画は、「地域における多様な主体の連携による生物の多様性の保全のための活動の促進等に関する法律（生物多様性地域連携促進法）」（平成22年法律第72号）に基づいて策定することから、この名称としています。
3	第2章 計画区域の設定と概要	2-1 自然環境 ②植物 ア) 植生	10頁	意見	単にナラ枯れと記述されているが、“カシノナガキクイムシによる”を入れるべきである。「さらに、近年ではカシノナガキクイムシによるナラ枯れが発生し、コナラやクヌギ等のブナ科樹木が枯死しています。」と修正すべきである。	「ナラ枯れ」は広く知られている文言であることから、このような記述としています。
4	第3章 計画の目標	1 計画の目的	21頁	意見	上から4行目の「半自然的環境」という語句は一般的ではない。平成15年度環境白書第6節4（環境省）では、人間が関与して形成された里地里山を「二次的自然環境」としており、これと合わせるべきである。	次のとおり、 <u>文言を修正します。</u> 1 計画の目的（4行目以降） 一方、人間が関与して形成された里地里山等の <u>環境</u> は、人間が適切に管理しないと土砂災害をもたらすことや、竹林が侵食する等、環境が劣化することが判明してきました。
5	第3章 計画の目標	5-1 将来像	23頁	提案	里地里山は、先人の知恵に裏付けられた生産活動により、その環境保全に繋がる場であったことから、保全活動は自然の恵みを得る行動とすれば、分かりやすいのではないかと考える。	今後の保全活動推進における参考とさせていただきます。
		5-2 長期・短期の目標	24頁			

No.	中間案での該当場所			種別	提出意見	市の考え
	章	項目	ページ			
6	第3章 計画の目標	5-3 保全に向けた基盤等整備イメージ	25 頁	提案	鹿背山分校を下った柿選果場裏から鹿背山倶楽部活動拠点まで、約1km弱で、徒歩約8分のルートがある。 このルートを、基盤等整備イメージ図に追加してはどうか。	提案のルートについて、保全に向けた基盤整備等イメージ図(26 頁)に <u>散策路として追加します。</u>
7	第3章 計画の目標	8 計画の達成に向けて	26 頁	提案	里地里山の環境整備活動は、過酷な作業条件での人海作業の継続が必須となる。この重労働作業に対しては、保険適用や交通費一部負担等の市費予算化を計れないか。	今後、里地里山保全活動を実施していく中で、検討します。
8	第3章 計画の目標	8 計画の達成に向けて	26 頁	提案	市が担うこととして SATOYAMA フォーラムが挙げられているが、学研木津北地区の事例のみを取り上げてのフォーラムであるならば、「学研北 SATOYAMA フォーラム」、「KASEYAMA 里山フォーラム」など名称を変更するか、対象を市全体に広げ、実施すべきであると考えます。	今後の保全活動推進における参考とさせていただきます。
9	第3章 計画の目標	8 計画の達成に向けて	27 頁	提案	里山から与えられる恵みは、誰もが利用し享受する権利がある。車椅子で緩傾斜の通路をデジカメ片手で自然観察ができ、中切川を親水ゾーンとして安全に水遊びが体験できる環境として紹介し、「福祉の観点に立つ里山利用」として、木津川市の独自性をPRしてはどうか。	バリアフリーを考慮した整備等の福祉の視点は重要と考えます。まずは、荒廃が進む里地里山の保全再生を図ることが必要と考えます。
10	第4章 活動の内容	生物多様性保全活動と生物への配慮事項の例	34 頁	提案	ルート整備において、緩やかな傾斜の通路を「車椅子ルート」として指定し、多様な来訪者を温かく迎えられる里山としてPRしてはどうか。	今後の保全活動推進における参考とさせていただきます。
11	第4章 活動の内容	生物多様性保全活動と生物への配慮事項の例	38 頁	提案	豊かな思いやりのある人作りを念頭に置いた指導者や参加者の養成を目指して、福祉団体や子育てグループとも連携した幅の広い環境教育の場として活用してはどうか。	幅広く関連する関係機関・団体をはじめ市内外の方と協働し、進めることとしています。
12	第4章 活動の内容	生物多様性保全活動と生物への配慮事項の例	38 頁	意見	記述されている内容が、調査・観察と記録に偏りすぎている。 指導者養成の1つとして観察ガイドができる人を養成するような記述としてはどうか。 人と環境とをつなぐ、本当の意味での環境教育ができる人材の養成を求める。	当該箇所は、生物への配慮事項を示すものであり、個別具体的な事例を記述しています。 なお、環境教育は、保全活動を推進するうえで重要な取り組みであることから、他の活動と連携しながら進めることとしています。
13	第5章 計画の推進	1 市の役割	39 頁	意見	整備を進める施設場所や整備方法など、明確な記述にすべきである。	今後、調整しながら施設整備等を進めることから、明確な記述はいたしません。
14	第5章 計画の推進	1 市の役割	39 頁	提案	計画区域を賃貸農園や園芸療法の間として活用できないか。	現時点では、ご意見の施策は考えておりません。 今後の保全活動推進における参考とさせていただきます。

No.	中間案での該当場所			種別	提出意見	市の考え
	章	項目	ページ			
15	第5章 計画の推進	1 市の役割	40 頁	意見	なぜ「木質バイオマスの有効利用等」について検討する連携先が、クリーンセンターなのかについて説明がない。 私たちがごみを出しているからこそ、里山を削らざるを得なかったことを明示し、ごみ削減のための情報提供を優先して望みます。	<u>次のとおり、文章を修正します。</u> 5 クリーンセンターとの連携 里地里山保全活動において生じる未利用間伐材等は、再生可能エネルギー源として、利活用する必要があります。クリーンセンター（下図：平成28年度中の稼働予定）は、計画区域に隣接する環境調和型研究開発ゾーンに立地予定であり、未利用間伐材等の搬入に適していることなどから、この取組みについて連携を進めるとともに、その他の木質バイオマスの有効利用等（木質バイオマスペレットや薪ストーブ用の燃料として利用等）について検討します。 なお、ごみ削減情報については、本計画に記述するものではないと考えます。
16	第5章 計画の推進	2 木津川市地域連携保全活動応援団	41 頁	意見	活動範囲が学研木津北地区であるならば、どの地区、どの事業の応援団か分かるような名称にするべきと考える。	応援団は、本計画を推進し、活動を支援するための組織であることから、この名称としています。
17	第5章 計画の推進	2 木津川市地域連携保全活動応援団	41 頁	意見 提案	木津川市内には、環境整備にかかわるグループや団体が存在する。本活動に参加するように呼び掛けてはどうか。また、人手と機材を融通しあう体制を協議してはどうか。 今後のUR都市再生機構との連携について市の考えはどうか。	計画区域内で活動する団体の自主性を尊重したいと考えます。 また、関連する関係機関・団体をはじめ市内外の多くの方と連携・協働したいと考えます。
18	第5章 計画の推進	3-2 応援団による進行管理	41 頁	提案	応援団の目的や事業内容に、本保全活動計画の全体的な進行管理を行うことについて盛り込んでどうか。	応援団において、協議・検討するものと考えます。
19	参考資料	第2回 会議結果要旨	59 頁	意見	今後、本計画を推進するにあたり、地域住民や所有者の賛同を得る作業が必要と考える。	今後の保全活動推進における参考とさせていただきます。
20	参考資料	第6回 会議結果要旨	80 頁	提案	「日々の生活の中に里山問題、生物多様性問題を溶け込ませることが大事」とあるが、そのために、活動団体・外部専門家もしくは企業の方による、セミナー・体験会を開催し、生活スタイルをどのように改善できるか具体的に提案いただいてはどうか。	今後の保全活動推進における参考とさせていただきます。